○公民館事業の外部委託の考えは
○防災拠点は建設するのか
○非常時の情報システムはどうするのか

菊地　洋議員

質問

公民館で実施されている生涯学習分野における事業数と年間の講座等の開催件数は、どれくらいあるのか。

教育長

人材育成等が3事業、生涯学習文化協会等の団体と連携した事業が8事業。社会体育で3事業、生涯学習で2事業の合計16事業あり、年間48回開催している。

質問

講座等はかなり多いため、職員の負担も多いと思うが、今後の改善策等はあるのか。

教育長

事業数が増加し、職員の負担が増えた場合には、各種団体と協議するようになる。また、各種事業を選定する場合、一新一廃する方法で考えていきたい。

質問

生涯学習文化協会の現況と事業委託の形態は、どのようになっているのか。

教育長

協会の加盟団体数は44団体、会員は604名である。生き生き学級、ジョイフルライフ講座、男性専科の3講座及び文化祭、文化芸能祭を公民館と共催で実施している。

公民館事業の外部委託は考えられないか

質問

県内でも白河市や坂下町ではNPO法人等への外部委託を行い、事業を円滑に遂行している自治体もあるが、公民館及び社会体育事業等は、今までの形態で事業を行っていくのか。外部委託等は考えていないか。

教育長

公民館事業のうち社会体育部門は、NPO法人等への委託も考えられるが、今ある組織活動の充実を図り、それぞれの団体が連携し、連絡・調整・相談をしながら体制整備を図り、皆さんから求められる実践を推進したい。

質問

仮称ではあるが防災福祉センターの建設と建設年度は、どのように考えているか。

健康福祉課長

現時点では施設建設に係る補助メニューが見当たらない状況であり、今後国・県に対する要望等も含めて検討する。

質問

復興町づくり計画には仮称防災福祉センターの整備検討とある。例えば、10年後に建設では、復興まちづくり事業という趣旨が薄れてしまうのではないか。

町長

昨年度、復興まちづくり計画の中に防災福祉センター建設を盛り込んだが、復興交付金の事業メニューにないのが現状である。必要性は感じているので、災害復旧の状況を見ながら用地、財源、手法等を検討する。

質問

計画には総合的な防災拠点の核施設とあるが、役場庁舎の情報システム機能が非常時には、移転できるようなものは考えられないか。

総務課長

防災福祉施設については、現在の役場庁舎のバックアップ機能や情報収集機能を有したものを検討したい。

役場の情報システム機能の確保を

○「牧場（まきば）のしずく」ブランド化の位置づけは
○学力向上へ週休２日の有効活用を
○「平成の寺子屋」授業を行ってはどうか

今泉文克議員

質問

鏡石町のブランド米「牧場のしずく」は、生産者にメリットを与えることが出来ず、生産増加に結びついていない。TPP問題も決着が迫る中、米価安定と生産者の経営確立に向けた政策はあるか。

産業課長

「牧場のしずく」のブランド化のメリットは販売価格の安定にあるが、コシヒカリが飽和状態の為、価格の低迷や流通単位として少量なこと等から優位販売に至っていない。国の対応を注視しながら町としても対応したい。

質問

早急なブランド化が求められるが、その他野菜についてもブランド化を考えているか。

産業課長

全国でも米の等級特Aが増加している。野菜等についても販売戦略を考えたブランド化が必要と考えている。

質問

「牧場のしずく」販売はJAに委ねられているが、販売品を店頭で見たことが無いという声を耳にする。改善策は考えているか。

産業課長

「牧場のしずく」名で販売されているのは「はたけんぼ」での精米と清酒「鏡の雫」の原材料となっているものである。今後、JAの米づくり部会と改善策を検討する。

質問

清酒の原材料では「牧場のしずく」というブランド名が表に出ない。今後どのような手立てを考えているのか。

町長

ブランド米の生産者と生産量を増やすためには、販売戦略が重要となる。例えば、町の推奨品制度等の検討を進めたい。

質問

東京でも鏡石産の農産物は消費者の評判も良く、高く評価されている。自信と誇りを持って、ブランド産業化を推進すべきと考えるがどうか。

町長

清酒も製造しているので、贈答用の販売等も視野に入れて推進したい。

牧場のしずくのブランド化推進を

質問

震災等の影響もあってか、県内児童・生徒の学力は全国下位と低迷している。週休二日制の政策が都市と福島の学力格差を大きくしているようにもみえるが、週休二日制の有効的な活用を考えているか。

教育長

平成14年度より学校週五日制のゆとり教育が始まったが、平成20年には、脱ゆとり教育が導入された。現在、土曜授業の検討が行われており、町でも国の情報収集に努める。

質問

町は学校支援サポート事業が文科省表彰を受ける等充実しているが、児童生徒の個性や学力を伸ばすため、週休二日制を利用した「平成の寺子屋」授業を町民のサポートにより、実施する考えはないか。

教育長

学校五日制は、社会全体で子どもを育てる理念となっているため、体験活動の機会など、より豊かな教育環境の提供が重要である。二小と中学校では学校応援団の支援を受けて、夏休み期間中に「寺子屋学習会」を実施している。

質問

数年前に休んでいる二日間の対応について質問したが、当時は映画会等を開催するとの回答であった。今こそ学習支援を実施すべきであると考えるが、どうか。

教育長

休日における授業の実施体制とその継続には、いくつかの問題点があるため、慎重に対応したい。